

大学院生の派遣が、学校に力を与える『最初の一歩』となります！

本学では、指導教員が学生と共に勤務校を訪れ、1年次に学校課題アセスメント、2年次には学校課題フィールドワークI・IIの実習指導を行います。実習過程においては、RPDCAサイクルの構築をめざしています。

教職大学院におけるR(調査)とは、学校環境、児童生徒の状況、保護者や地域の人々のニーズ等のデータを収集・分析することです。これを基に学校アセスメントが行われます。次に、学校課題と学生のニーズが一本化された実習課題が設定され、勤務校を巻き込んだ取組の方針等のP(計画)が立てられます。そして、D(実践)、C(評価)、A(改善)のサイクルへとつなげていきます。

このようにして、学生の実践を通して学校と教職大学院との協働が展開されるのです。

自分と学校が見えた2年間

平成23年度修了生 美馬市立脇町小学校教諭 四宮 ゆみ

鳴門教育大学教職大学院での学びは、これまでの自分の実践を振り返り、今後の教職生活に役立つものでした。入学当初は、正直、「こんなことを学びたかったのだろうか」という思いでレポートに向き合っていました。しかし、仲間とともに乗り越え、議論する中で自分の内面を知り、知らず知らずのうちに理論的側面と実践的側面の力をつけて、2年次の学校課題フィールドワークに臨めたように思います。

学校アセスメントから見えてきた課題解決のための取り組みが、実習校に受け入れられるのか不安も大きく、気を遣うことも少なくありません。しかし、その分だけ教職員や児童と協働する喜びを実感できました。まさにユニバーサルデザインを媒介として、子どもをよししたい！子どもたちのために！という思いで教職員がつながったからこそ得られた成果であったと感じます。



学校課題フィールドワークによる学校力向上

美馬市立脇町小学校長 宮浦 明彦

実習校である本校における、ユニバーサルデザインを活かした視覚支援の実践は児童、保護者、教職員を含め、学校運営の活性化を図り、本校の教育水準の向上、進展に資するものとなりました。

実習の初めに「たとえどんなにいいものであっても、新しいものを導入、展開することの難しさ」を申しました。しかしながら、実習生の周囲の状況をよく理解した上で、丁寧な取組と工夫が児童、教職員に受け入れられ、協働が生まれたのです。

本校はこれまで鳴門教育大学教職大学院に4名の教員を派遣しておりますが、この派遣が学校力向上に貢献していることはいうまでもありません。



お問い合わせ

鳴門教育大学 教職大学院コラボレーションオフィス

電話：088-687-6598 FAX：088-687-6694

E-mail : collabo@naruto-u.ac.jp

鳴門教育大学ホームページ <http://www.naruto-u.ac.jp/>



鳴門教育大学教職大学院における学びの風と光を届ける実践です！

心と学習をつなぐ ユニバーサルデザイン

ユニバーサルデザインはものと場と人をつなぎ学校を楽しく元気にします。

CASE 3： 子どもと教職員の協働



子どもと教職員の協働によるユニバーサルデザイン

—ユニバーサルデザインを愛し、「もの」と「場」と「人」に配慮し工夫する、教職大学院生「ユニ先生」の実践—



学習環境を自分たちで見直す

情報をまとめ、思いやりのある環境づくりに主体的に取り組む

ユニバーサルデザインの可能性に気づいた子どもの中には、学級の係活動や委員会活動等で視覚化を意識した「相手にわかりやすい作品」を作成する主体的な活動が見られる。



通常学級における支援を要する子どもと、多忙な教職員のニーズをつかむ。

授業をわかりやすく
教えてほしいなあ…
(子どものニーズ)

先生の顔や名前が
知りたいなあ…
(子どものニーズ)

教師力を高める場が
ほしいなあ…
(教職員のニーズ)

1 Research
ニーズをつかむ

居心地のよい
学習環境

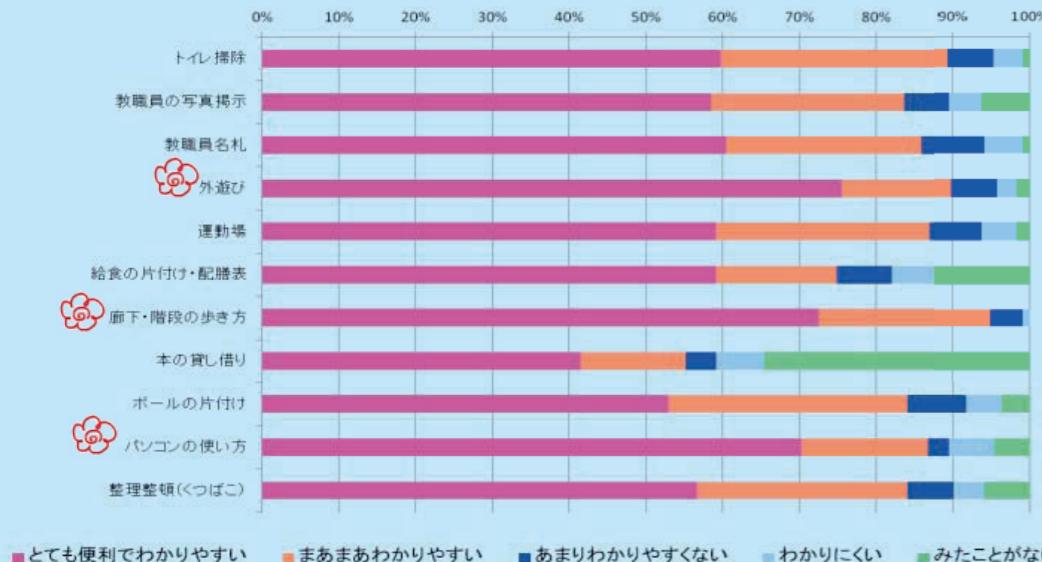
Action
子どもが動き出す

2 Plan
継続と変化への挑戦

5 Check
可能性に気づく

安心できる
学校・学級

3 Do
一目でわかる
環境づくり

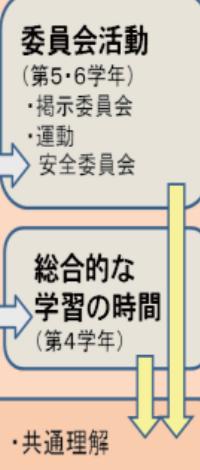
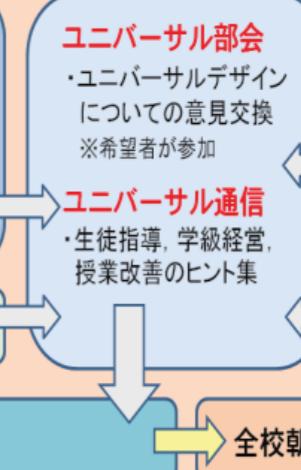
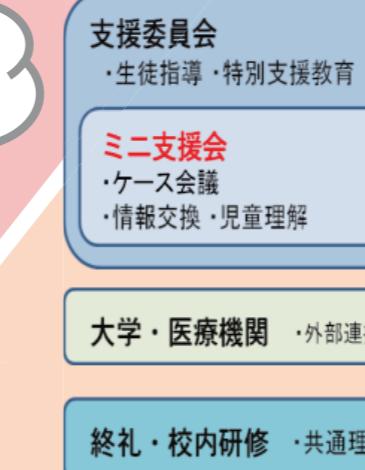


前・後期実習終了後の子どもに対するアンケートでは、12の取組全て「わかりやすく便利」という概ね肯定的な評価を得た。

* 学校におけるユニバーサルデザイン (UD) *

UDは、1985年にノースカロライナ州立大学のロナルド・メイスによって提唱された「すべての人のためのものと環境のデザイン」です。学校教育においては、「学校・学級の一人ひとりに活かされる、だれもがわかりやすく、安心して生活できる学校環境のデザイン」と言えるのではないでしょうか。

そして、それは声高に喚起するものではなく、静かに存在し、丁寧な学校生活を送るために必要なものだと思います。そのためには、保護者や地域の人々の協力を得て、家庭や地域社会全体で子どもたちの教育に取り組むことが大切です。



ミニ支援会・ユニバーサル部会・ユニバーサル通信を中心にして校内の協働体制を整えた。

計画を立てる上で、これまでの実践を活かす大切さと変えていく勇気を実感した。子どもと教職員との協働で「もの」「場」「人」を活かしたユニバーサルデザインに取り組むことにした。



くつの整頓

